

# 対流が生み出す活力ある地域と国土

人口減少と高齢化が同時進行する社会にあって、「程よい成長に支えられた先進国に相応しい安定感ある地域と国土」を創ることは、多くの国民が同意できる目標だろう。第2次国土形成計画は、我が国が直面する現在のこのような危機をチャンスに変えることを目指して策定された。

計画の全体を貫くテーマは「対流の促進」である。昭和37年の全国総合開発計画から数えて第7次の計画に相当するが、歴代の国土計画の基本理念は、「交流・連携が新しい価値を生み出す」ことにある。それを現代に体現しているのが「対流」であり、人・モノ・情報の内外での双方向の流動を促すことによって、東京一極集中の是正と各地の地域力、都市の国際競争力を高めることを目指している。

対流が新たな価値を生む典型例は大学だろう。各地の主要大学は、東京経由でない独自のネットワークをもっていて、世界の大学等と人・情報等の双方向の対流を促すことによって新たな価値を創造しようとしている。地域のコミュニティ大学も、地域の対流の拠点としての役割を担っており、地域づくりで中間支援的な活動で期待されている大学は多い。

対流を引き起こすには、各地に熱源となる拠点

が必要である。国土形成計画で提起されている主な熱源として、「東京オリンピック・パラリンピック」「コンパクト+ネットワーク」「スーパーメガリージョン」がある。

コンパクト+ネットワークは第2次国土形成計画における今後のハードとソフトの地域づくりの基本である。地方都市では人口減少による消滅が切迫感をもって受け止められているが、懸念されるのは消滅よりも都市機能の低下だろう。合併で一定程度の人口にはなっているが、旧市の人口は十数万程度で、さらに人口が減少すれば、生活や産業活動に支障をきたす都市は少なくない。コンパクト+ネットワークの目的は、圏域の都市が互いに連携して相互に補完しあいながら都市の高度な機能を維持することにある。

都市のコンパクト化については、都市の規模や性格で形は異なるが、政府の大都市圏戦略検討会議の検討では、大都市圏も対象に「あじさい型」や「団子と串型」などに分類されていて、中心部にある程度集約化して商店や医療機関、金融機関、小ホール、小学校等の第1次生活支援機能を整備することがイメージされており、それに向けた施策も実行に移されてきた。連携した都市群は、日常生活においても一つの生活圏として機能するこ

学校法人梅村学園 中京大学 理事・学術顧問

おくの のぶ ひろ  
奥野 信宏



とが求められるが、そのためにはNPOなどの市民の日常の取組みとともに、都市圏をネットワーク化する高規格の道路網や情報通信機能、新たな都市施設等の整備が求められる。

スーパーメガリージョンは、リニア中央新幹線の開業に伴って、東京・名古屋・大阪圏が一体となり、日本のエンジンとして多様な面で我が国を牽引することを期待する構想であり、第2次国土形成計画・全国計画の一部として、昨年夏に閣議決定された。リニア中央新幹線は、2027年には東京・名古屋間が開業する。それに伴い人口が6千万人近くにのぼる鉄道による日帰り交流圏が誕生する。既に名古屋圏では、名古屋駅周辺を中心に整備構想が固まり、具体的な実行計画の詰め段階に入っている。一方で、集積する機能を名古屋駅地区だけで受け止めることができるかどうかという課題が出てきており、副都心の整備が話題に上りつつある。名古屋圏だけでなく、品川駅周辺を始め、沿線各地の駅周辺の整備構想も検討されつつあるが、リニア関連の街の整備事業は、東京オリンピック・パラリンピックの後を継ぐ我が国の大きな事業機会になると思う。

対流を引き起こすエネルギー源になるのは各地の担い手であり、住民をはじめとする人びとの共

助である。国土計画では、昭和62年の第4次全国総合開発計画から、多様な主体の参加による地域・街づくりが謳われるようになった。平成20年の国土形成計画ではそれが「新たな公」と呼ばれ、「小さな拠点」の育成支援が実施されてきたが、現在は共助社会の名のもとに、引き続きNPO等の多様な主体の育成事業が実施されてきている。また昨年度から、政府は各圏域に、「PPP・PFIプラットフォーム」を組織し、多様な主体の参加をさらに拡大して、ハードの整備を包含した街の施設の整備環境を改善しようとしている。我が国の現代の特徴は、まさに普通の人や民間が公共を担うようになったことにあると思う。

OECDは、先ほど第2次国土形成計画・全国計画を高く評価した報告書を発表した。人口減少と少子高齢化で先行した我が国が、遠からず同じ問題に直面する多くの先進国の範になることが期待されている。これからの我が国の地域・街づくりは、多様な主体の参加においても、地域の社会資本の維持管理やストックの活用においても、また日本を主導するスーパーメガリージョン圏域におけるソフト・ハード整備においても、世界の注目を集めている。